



## 2023年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月10日

上場会社名 株式会社エヌジェイホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 9421 URL <https://www.njhd.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福田 尚弘  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室長 (氏名) 野澤 創一 TEL 03-5418-8128  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年6月期第2四半期の連結業績（2022年7月1日～2022年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第2四半期	4,955	△14.1	△237	—	△243	—	△237	—
2022年6月期第2四半期	5,766	△2.7	△257	—	△258	—	△468	—

(注) 包括利益 2023年6月期第2四半期 △238百万円 (—%) 2022年6月期第2四半期 △503百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第2四半期	△44.93	—
2022年6月期第2四半期	△88.56	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第2四半期	4,444	1,622	34.6
2022年6月期	4,645	1,892	38.8

(参考) 自己資本 2023年6月期第2四半期 1,536百万円 2022年6月期 1,801百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2023年6月期	—	0.00	—	—	—
2023年6月期（予想）	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年6月期の連結業績予想（2022年7月1日～2023年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,470	△1.7	15	—	5	—	△95	—	△17.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年6月期2Q	5,350,400株	2022年6月期	5,350,400株
② 期末自己株式数	2023年6月期2Q	57,550株	2022年6月期	57,550株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年6月期2Q	5,292,850株	2022年6月期2Q	5,292,850株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・決算説明資料は、2023年2月10日（金）に当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な金融引締めや原材料価格の上昇などによる下振れリスクがあるものの、ウィズコロナの下で経済活動が進むなか、持ち直しの動きが続きました。

ゲーム業界におきましては、各種の余暇産業が回復するなかで、余暇時間の獲得競争が激しくなっております。スマホゲーム市場では、反動の影響が見られるものの、上位タイトルは安定してユーザーを保持しており、また、好調な成長を見せる新規タイトルも表れております。コンシューマー市場でも、複数のヒットタイトルが登場しており、新型ハードの不足感も解消を見せるなか、市場は堅調に拡大しております。また、PCゲーム人口もハイエンド機での海外人気タイトルのプレイニーズによって拡大を続けております。一方で、クオリティ期待値の上昇に伴って続いている開発費の膨張は、コンテンツの価格戦略や提供の方式において今後の持続的な展開に向けた試みを増加させていくものと予想されます。

モバイル業界におきましては、端末価格の適正化等から、乗り換えメリットが低下するなか、物価高懸念や端末価格への影響もあって、買い替えサイクルが伸びております。一方で、5Gの普及は着実に進んでおり、新たな利用スタイルを提案する料金プランも続々と登場しております。デジタル変革に伴う社会ニーズも踏まえながら、提供サービスの拡充を図る必要性が高まっております。

このような事業環境のなか、当社は、ゲーム事業におきましては、マネジメント体制の強化及びリーダー候補人材の登用等を進めるとともに、新規案件の獲得に注力してまいりました。モバイル事業におきましては、キャリアショップ部門については、提供サービスの拡充を図り、販売店部門については、地域密着型に重きをおいた出店戦略に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績につきましては、以下のとおりです。

売上高は、ゲーム事業においては、運営サポート分野では、新規リリースタイトル等に係る受注が順調であります。開発分野では、小規模や短期で終わる新規開発案件が多く、収益に紐づく人員稼働率の回復が遅れていることや、見積原価総額の増加に伴う進捗率低下により、収益が低下いたしました。モバイル事業においては、来店者数の前年度割れが続くなか、集客イベント等の実施に取り組むも、販売台数は計画を下回りました。この結果、売上高は、4,955百万円と前年同期と比べ810百万円(14.1%減)の減収となりました。

営業損益及び経常損益は、ゲーム事業においては、上記のとおり、運営サポート分野は受注に伴い順調に利益を伸ばしましたが、開発分野での収益性低下の影響が大きく、損益は悪化いたしました。モバイル事業においては、スマホをより便利に安心して使える提案に努めるなど、1顧客当たりの利益の増加に取り組むとともに、販売店部門においても、アフターサービスの強化に取り組んでおり、利益は回復傾向にありますが、第1四半期の損失を取り戻すには至りませんでした。この結果、営業損益は、237百万円の営業損失(前年同期は257百万円の営業損失)となり、経常損益は、243百万円の経常損失(前年同期は258百万円の経常損失)となりました。

親会社株主に帰属する四半期純損益は、237百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失(前年同期は468百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ① ゲーム事業

当セグメントにおきましては、(株)ゲームスタジオ、(株)トライエース、(株)ウィットワン、(株)ウィットワン沖縄及び(株)テックフラッグにてゲームの開発受託及び運営受託等を行っております。

売上高については、運営サポート分野では、新規リリースタイトル等に係る受注が順調であります。開発分野では、小規模や短期で終わる新規開発案件が多く、収益に紐づく人員稼働率の回復が遅れていることや、見積原価総額の増加に伴う進捗率低下により、収益が低下いたしました。この結果、3,913百万円と前年同期と比べ569百万円(12.7%減)の減収となりました。

セグメント損益(営業損益)については、上記のとおり、運営サポート分野は受注に伴い順調に利益を伸ばしましたが、開発分野での収益性低下の影響が大きく、損益は悪化いたしました。この結果、94百万円のセグメント損失(営業損失)(前年同期は109百万円のセグメント損失(営業損失))となりました。

#### ② モバイル事業

当セグメントにおきましては、(株)ネプロクリエイトにてauショップ等のキャリアショップ及び複数の通信事業者の端末・サービスを取り扱う販売店PiPoPark(ピポパーク)を運営しております。

売上高については、来店者数の前年度割れが続くなか、集客イベント等の実施に取り組むも、販売台数は計画を下回りました。この結果、1,009百万円と前年同期と比べ245百万円(19.5%減)の減収となりました。

セグメント損益(営業損益)については、スマホをより便利に安心して使える提案に努めるなど、1顧客当たりの利益の増加に取り組むとともに、販売店部門においても、アフターサービスの強化に取り組んでおり、

利益は回復傾向にあります。第1四半期の損失を取り戻すには至りませんでした。この結果、4百万円のセグメント損失（営業損失）（前年同期は27百万円のセグメント利益（営業利益））となりました。

③ その他

当セグメントにおきましては、クレジット決済事業等を行っております。

売上高については、36百万円と前年同期と比べ2百万円（6.8%増）の増収となりました。セグメント利益（営業利益）については、17百万円と前年同期と比べ1百万円（7.5%増）の増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は4,444百万円となり、前連結会計年度末と比べ201百万円の減少となりました。主な要因は、商品の増加29百万円、現金及び預金の減少311百万円等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の負債は2,821百万円となり、前連結会計年度末と比べ68百万円の増加となりました。主な要因は、短期借入金の増加100百万円、買掛金の増加46百万円、受注損失引当金の増加46百万円、長期借入金の減少135百万円等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は1,622百万円となり、前連結会計年度末と比べ269百万円の減少となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失237百万円、配当金支払26百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当連結会計年度の通期業績予想につきましては、2023年2月10日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて、下記のとおり修正しております。

売上高 10,470百万円（前回予想は、売上高10,710百万円）

営業利益 15百万円（前回予想は、営業利益160百万円）

経常利益 5百万円（前回予想は、経常利益150百万円）

親会社株主に帰属する当期純損失 95百万円（前回予想は、親会社株主に帰属する当期純利益70百万円）

詳細につきましては、2023年2月10日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,094,586	782,857
売掛金及び契約資産	1,679,027	1,648,313
商品	187,719	217,412
仕掛品	25,046	23,100
貯蔵品	1,242	1,182
その他	272,143	371,274
流動資産合計	3,259,766	3,044,142
固定資産		
有形固定資産	108,498	109,704
無形固定資産		
のれん	500,000	460,000
その他	20,055	17,873
無形固定資産合計	520,055	477,873
投資その他の資産		
差入保証金	551,118	404,479
その他	273,034	474,673
貸倒引当金	△66,819	△66,653
投資その他の資産合計	757,332	812,499
固定資産合計	1,385,886	1,400,077
資産合計	4,645,653	4,444,219
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	357,484	403,831
短期借入金	600,000	700,000
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	330,916	303,836
未払法人税等	15,892	7,444
賞与引当金	30,537	27,540
受注損失引当金	67,287	114,146
その他	410,401	494,673
流動負債合計	1,852,519	2,091,473
固定負債		
社債	60,000	40,000
長期借入金	594,645	459,600
退職給付に係る負債	128,682	138,718
その他	117,331	91,904
固定負債合計	900,658	730,222
負債合計	2,753,178	2,821,695

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	592,845	592,845
資本剰余金	350,290	350,290
利益剰余金	917,140	652,859
自己株式	△59,111	△59,111
株主資本合計	1,801,164	1,536,883
新株予約権	34	34
非支配株主持分	91,275	85,605
純資産合計	1,892,475	1,622,523
負債純資産合計	4,645,653	4,444,219

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
売上高	5,766,511	4,955,984
売上原価	5,074,791	4,319,709
売上総利益	691,720	636,274
販売費及び一般管理費	949,174	874,206
営業損失(△)	△257,453	△237,931
営業外収益		
受取利息	93	89
持分法による投資利益	3,354	3,931
不動産賃貸料	6,492	4,632
その他	3,342	1,976
営業外収益合計	13,281	10,629
営業外費用		
支払利息	7,133	6,846
支払手数料	1,831	7,704
不動産賃貸原価	3,074	1,182
その他	2,711	168
営業外費用合計	14,750	15,902
経常損失(△)	△258,922	△243,204
特別損失		
減損損失	220,524	—
特別損失合計	220,524	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△479,446	△243,204
法人税等	24,182	△4,241
四半期純損失(△)	△503,629	△238,962
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△34,885	△1,145
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△468,744	△237,816



(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
四半期純損失(△)	△503,629	△238,962
四半期包括利益	△503,629	△238,962
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△468,744	△237,816
非支配株主に係る四半期包括利益	△34,885	△1,145

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△479,446	△243,204
減価償却費	53,971	24,940
のれん償却額	73,926	39,999
減損損失	220,524	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△29,568	△2,996
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	6,874	10,036
受注損失引当金の増減額(△は減少)	28,618	46,858
受取利息及び受取配当金	△93	△89
支払利息	7,133	6,846
売上債権の増減額(△は増加)	△70,585	30,714
棚卸資産の増減額(△は増加)	43,473	△27,686
前払費用の増減額(△は増加)	47,137	21,863
仕入債務の増減額(△は減少)	71,937	46,347
未払金の増減額(△は減少)	14,888	56,249
前受金の増減額(△は減少)	△1,994	△18,254
その他	109,381	54,240
小計	96,180	45,865
利息及び配当金の受取額	93	89
利息の支払額	△6,992	△6,751
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△50,460	△7,906
営業活動によるキャッシュ・フロー	38,821	31,296
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
固定資産の取得による支出	△34,699	△22,750
差入保証金の差入による支出	△31,183	△3,932
差入保証金の回収による収入	215,999	—
投資有価証券の取得による支出	—	△199,994
長期貸付金の回収による収入	512	165
資産除去債務の履行による支出	△31,700	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	118,928	△226,512
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(△は減少)	50,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△141,310	△162,125
長期未払金の返済による支出	△59,889	△3,210
リース債務の返済による支出	△120	△123
社債の償還による支出	△20,000	△20,000
配当金の支払額	△52,857	△26,528
非支配株主への配当金の支払額	△9,050	△4,524
財務活動によるキャッシュ・フロー	△233,227	△116,512
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△75,477	△311,728
現金及び現金同等物の期首残高	1,250,748	1,094,586
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,175,271	782,857

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間  
(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当四半期連結財務諸表の作成にあたり、新型コロナウイルス感染症の影響が当面の間継続するものと仮定し、会計上の見積りを検討しておりますが、現時点において当社グループへ重要な影響を与えるものではないと判断しております。ただし、今後の状況の変化により、当四半期連結累計期間以降に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年7月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ゲーム事業	モバイル事業	計		
売上高					
一時点で移転される財又はサービス	2,112,970	1,252,620	3,365,590	33,825	3,399,416
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	2,367,095	—	2,367,095	—	2,367,095
顧客との契約から生じる収益	4,480,066	1,252,620	5,732,686	33,825	5,766,511
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	4,480,066	1,252,620	5,732,686	33,825	5,766,511
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,850	1,579	4,429	—	4,429
計	4,482,916	1,254,199	5,737,116	33,825	5,770,941
セグメント利益又は損失(△)	△109,902	27,954	△81,948	16,659	△65,288

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、クレジット決済事業等でありませ

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益又は損失(△)	金額
報告セグメント計	△81,948
「その他」の区分の利益	16,659
セグメント間取引消去	—
のれん償却額	△73,926
全社費用(注)	△118,238
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△257,453

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
(固定資産に係る重要な減損損失)

ゲーム事業において、連結子会社である(株)トライエースの当初の事業計画に対する進捗状況及び今後の業績見通しを考慮した結果、当初想定していた超過収益力が見込めなくなると判断し、のれんについて減損損失を計上しております。なお、当該事象によるのれんの減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において220,524千円であります。

## Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ゲーム事業	モバイル事業	計		
売上高					
一時点で移転される財又はサービス	2,586,955	1,009,040	3,595,995	36,110	3,632,105
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	1,323,878	—	1,323,878	—	1,323,878
顧客との契約から生じる収益	3,910,833	1,009,040	4,919,874	36,110	4,955,984
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	3,910,833	1,009,040	4,919,874	36,110	4,955,984
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,700	108	2,808	—	2,808
計	3,913,533	1,009,148	4,922,682	36,110	4,958,792
セグメント利益又は損失(△)	△94,445	△4,679	△99,124	17,910	△81,213

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、クレジット決済事業等でありませ

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益又は損失(△)	金額
報告セグメント計	△99,124
「その他」の区分の利益	17,910
セグメント間取引消去	—
のれん償却額	△39,999
全社費用(注)	△116,718
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△237,931

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。